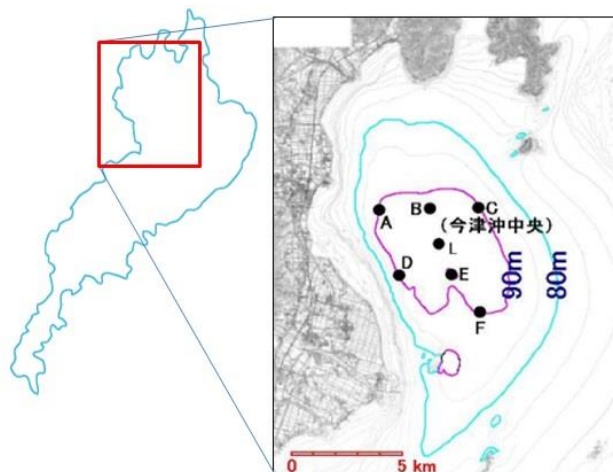


【参考】

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層DOが低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬の水温低下と季節風の影響により、水深の浅いところから徐々に全層循環が起こり、表層から底層で水温やDOなどの水質が一様となります。北湖今津沖の第一湖盆（水深約90m地点）では、例年2月上旬から中旬にかけて、全層循環が確認されていますが、平成30年度は昭和54年度の調査開始以降初めて全層循環が確認できず、令和元年度も2年連続全層循環が確認できませんでした。

1. 調査地点



C、L：定期調査地点

A、B、D、E、F：補足調査地点

< 第一湖盆水深90mの面積 >

琵琶湖全体の約5%

< 第一湖盆水深90m以深の水の容積 >

琵琶湖全体の1%未満

2. 【速報】調査結果（令和3年9月6日時点）

単位:mg/L

調査日 調査地点	4月			5月		6月		7月		8月			9月
	4/6	4/12	4/19	5/10	5/24	6/7	6/21	7/5	7/19	8/2	8/16	8/30	9/6
A	9.2	9.6	9.3	9.0	8.6	7.7	7.2	6.2	5.6	3.6	3.3	3.8	3.2
B		9.1							4.8	4.1	3.9	2.9	2.1
C(今津沖中央)	9.3	9.3	9.3	9.2	8.6	8.4	7.2	7.9	5.0	5.1	5.2	3.7	3.9
D	9.4	9.5	9.2	9.1	8.8	8.1	7.0	6.6	6.0	6.0	3.6	5.6	5.1
E		9.2							4.4	4.3	5.5	4.9	1.8
F	9.7	9.3	9.4	9.0	8.9	8.5	7.6	6.2	5.4	5.6	5.7	5.8	4.6
L(第一湖盆中央)	9.3	9.6	9.5	9.2	8.7	8.2	7.5	5.8	4.5	4.8	4.2	1.7	2.1

表1 令和3年度各地点の底層DO調査結果

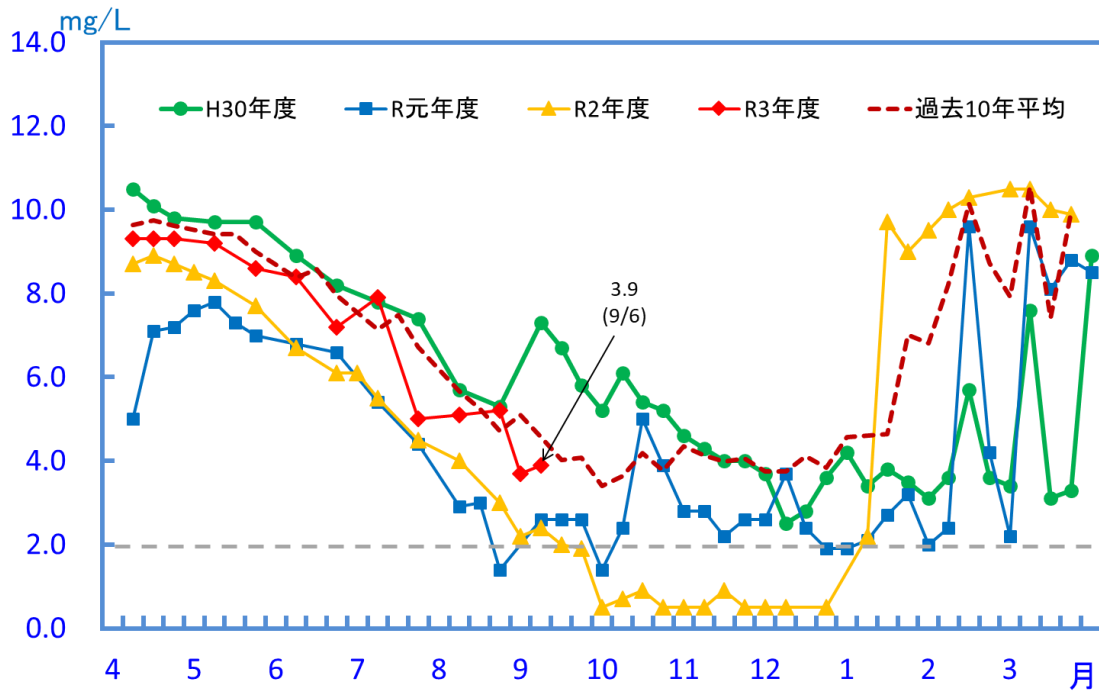
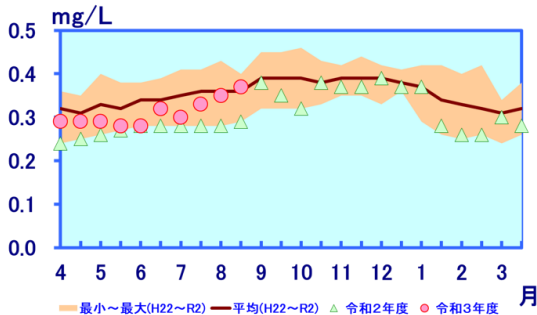


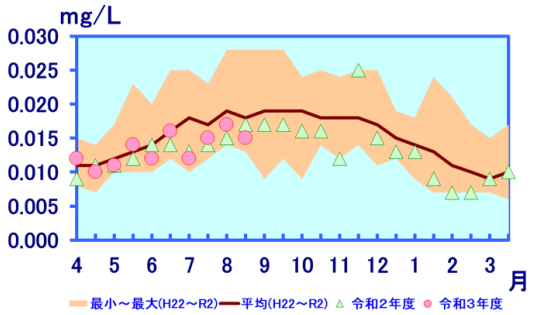
図1 C点の底層DO経月変動

※ 昭和54年(1979年)から測定を行っているC点(今津沖中央)の底層DO経月変動を示しています。

全窒素の経月変動(今津沖中央(C)底上1m)



全りんものの経月変動(今津沖中央(C)底上1m)



全マンガンの経月変動(今津沖中央(C)底上1m)

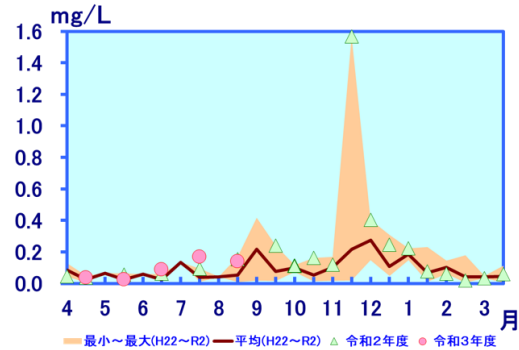


図2 今津沖中央(C点)底上1mの主要な水質の状況



(イサザ)



(スジエビ)

図3 ROV(水中ロボット)を用いた湖底調査(9月3日)

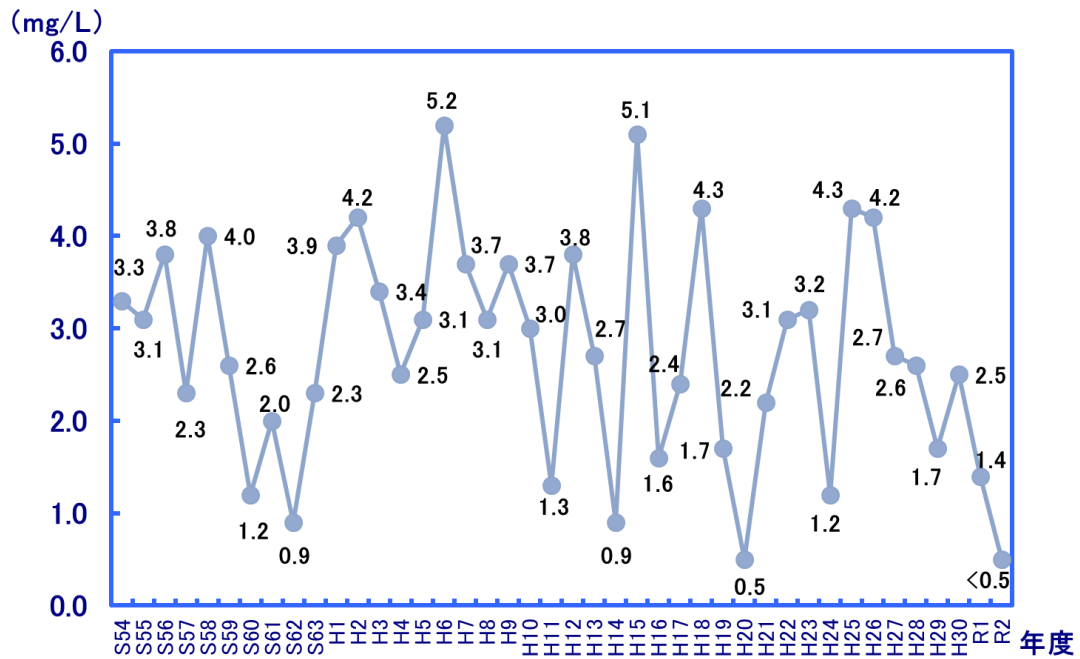


図4 C点における底層DOの年度最低値